
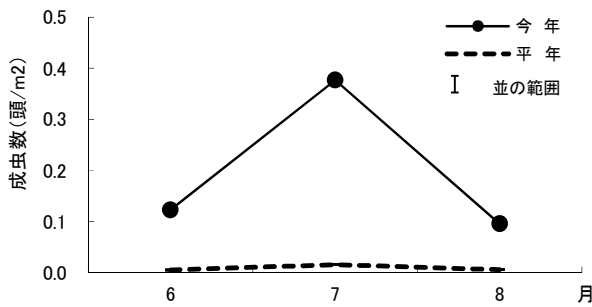
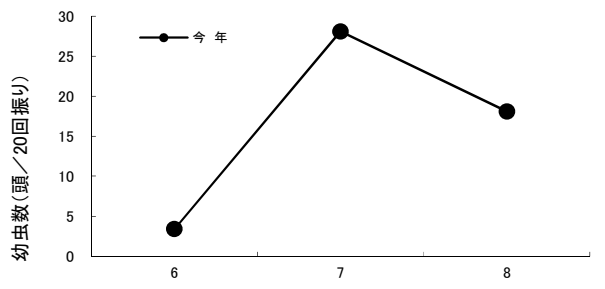


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① バッタ類		
8月の発生量（現況）		多	
9月の増減傾向		↓	
増減傾向の根拠		ヒゲマダライナゴの発生ピークは6～8月であることから、8月より発生量は減少すると考えられる。	

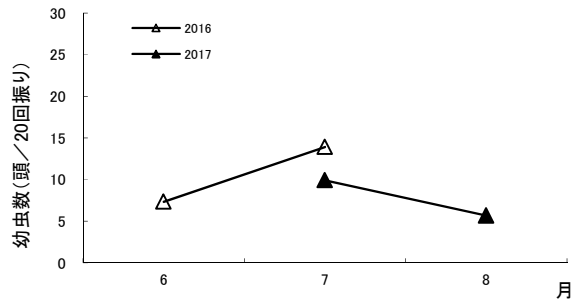
発生量の根拠（調査結果）



バッタ・イナゴ類の発生推移



バッタ・イナゴ類の発生推移




バッタ・イナゴ類の発生推移

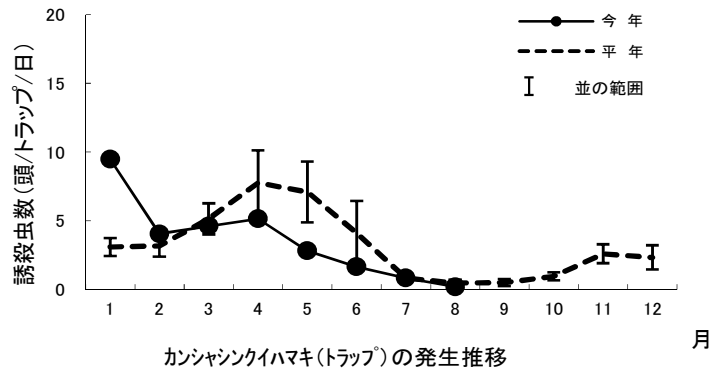
- ・ 調査作型：夏植、調査地域：石垣市
- ・ 成虫数（頭/30m<sup>2</sup>）：0.1（平年0.1頭未満） ※一部ほ場で多発
- ・ 発生ほ場率（%）：75.0 ・発生種：ヒゲマダライナゴ、チュウゴクヒゲナガイナゴ
- ・ 幼虫数（頭/捕虫網20振）：18.1（前年5.7）

防除のポイント

- ・ ほ場周辺の雑草や牧草地は、若齢幼虫の好適な餌場となるため、除草や早期刈り取りに努める。
- ・ 成虫では防除が困難になるので、若齢幼虫期をねらった薬剤防除を行う。
- ・ 高温乾燥時に多発する傾向があるので、干ばつ時は適宜灌水を行う。
- ・ 平成30年度病害虫発生予察注意報第2号参照。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
8月の発生量(現況)	やや少		
9月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、発生量は8月と同程度と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



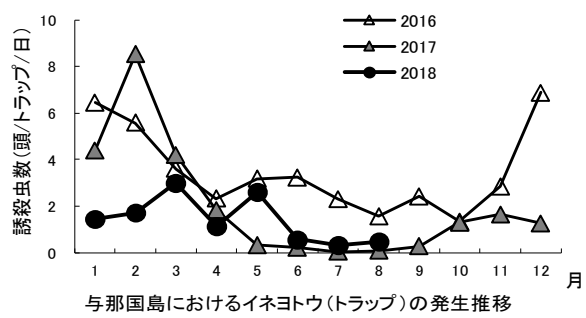
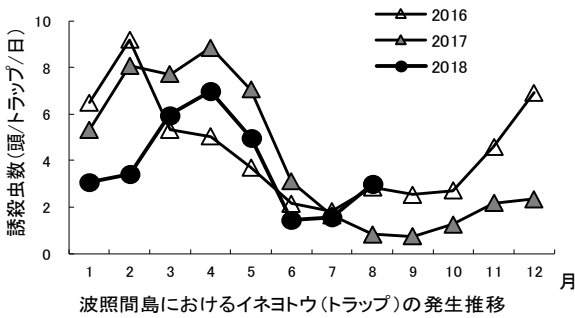
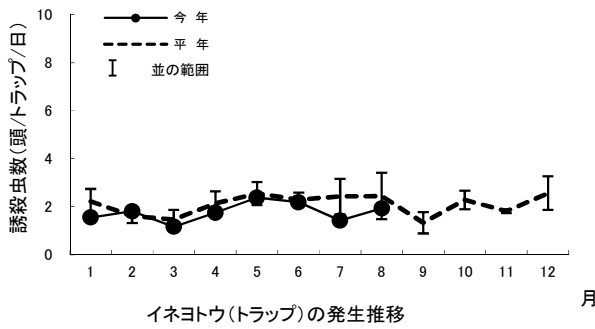
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日) : 0.2 (前年0.4、平年0.5、判定「やや少」)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類) : 中発生(波照間島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植付時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
8月の発生量(現況)		並	
9月の増減傾向		↘	
増減傾向の根拠		トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、8月より発生量は減少すると考えられる。	

発生量の根拠(調査結果)



- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日) : 1.9 (前年2.2、平年2.4、判定「並」)
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(竹富町波照間島、頭/日) : 3.0 (前年0.8、例年1.2)
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(与那国町、頭/日) : 0.5 (前年0.1、例年0.7)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類) : 中発生(波照間島)

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 定植及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。